

平成30年度 学校評価

1 自己評価について

(1) 学校アンケート及び保護者の意見等の成果と課題

① 今年度重点として取り組んできた、ブランド構築・研究と課題・連携推進に関しては、生徒・教職員アンケート共に前年度を大きく上回る項目が増えた。特に「そう思う」という割合が増えた。

- ・ 「あいさつ」…2%→44%(教職員), 32%→61%(生徒)
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」…9%→52%(教職員), 36%→64%(生徒)
- ・ 「楽しい生活」…4%→50%(教職員), 45%→66%(生徒)
- ・ 「わかる授業」…6%→40%(教職員), 33%→42%(生徒)
- ・ 「コミュニケーション」…2%→36%(教職員), 40%→55%(生徒)

② 「そう思う」という評価が前年度より下がった項目は、教職員で1つ、生徒で4つという結果であった。

- ・ 教職員…「学校教育目標」 54%→44%(マネジメントを意識した教師間の対話)
- ・ 生徒…「学習意欲の表現」 31%→26%(全校でのR80の推進)
「落ち着いた生活」 45%→43%(白山ブランドに位置づけ)
「先生に話す」 32%→26%(教職員の傾聴力, 承認力の向上)
「災害対策意識」 52%→41%(避難訓練等の工夫改善)

③ 保護者の授業参観, 行事, 保護者会等での意見, 学校アンケートに対する意見, 感想等では概ね肯定的な意見, 感想が多かった。

昨年度いただいた要望等については, 今年度少しずつ改善できた。

- ・ 保護者アンケートの改善…アンケートを削減し, 意見聞き取りに切り替えた。
- ・ 駐輪場の不足, 照明等の問題…古い鶏小屋を撤去し, 次年度設置する予定。
- ・ カバンの重量軽減…留め置き教科書を確認し, 生活委員会で改善を進めている。
- ・ 防災訓練の検討…「おやじの会」主催で「震災体験キャンプ」を継続実施する。
- ・ 長欠生徒への対応…適応教室の対応・長欠生徒の保護者会の実施・関係機関との連携等の推進してきた。

今年度は, 「職場体験」について, 「親や知り合いの職場」任せなのは如何なものかというご意見をいただいた。今年度はインターンシップとハローワーク方式の両方を加味して行った。周知が遅くなったために, 各家庭にご負担をおかけしたが, 結果として, 多くの職種を共有できたこと, 保護者との会話が深まったこと, 実施日時の融通が利いたこと等, 昨年度以上の成果が得られたので, 負担軽減を考え, 事前の周知を早めに行っていきたい。

(2) 学校評価アンケート(校内運営委員・分掌担当者)に関する考察

① 教育目標・指導の重点

目標の設定や意識の持たせ方, 活用の仕方については概ねよいと考えるが, 保護者

への理解や他の分掌との関連付け、計画改善については、改善の余地がある。特に授業時数の確保と運用については、大きな課題を持っている。次年度に向けた教育課程の改善と見直しが必要である。

② 各教科

A Lの視点に立った授業改善はかなり進んでいる。教科内での格差を出さないよう科内での打ち合わせを効果的に行いたい。また、教材の精選や課題設定・評価についても年間指導計画を作成する際に教科内の振り返りを十分に生かしていきたい。新しい学習指導要領の移行措置に伴う指導計画の変更を再確認しながら、個に応じた指導の工夫に生かせるようにしたい。

教材・教具の管理・活用が十分に行えるよう、各教科部会の確保が課題である。

③ 道徳

授業時数の量的確保は計画通りにできた。課題は、学校の実態に即した指導計画の立案と授業評価である。次年度から実施される「道徳科」としての課題でもある。「考え議論する道徳」を具体的に進めていかなければならない。

④ 特別活動

生徒が主体的に活動できるように、生徒会や委員会、部会活動を中心に進めることができた。特に三つの伝統や学校行事については向上してきている。旅行的行事のねらいを意識し、学校としての系統性を持たせることができた。

⑤ 生徒指導

生徒指導に関する共通理解や協力体制は改善されてきている。生徒に寄り添う丁寧な指導も推進されてきている。聴く姿勢を大切にし、生徒理解に基づく指導・支援が推進されている。課題は、全体計画や指導計画等が実態に即したものになるように次年度に向けて十分に見直す必要がある。

⑥ 進路指導

進路指導については、キャリア教育のねらいを十分に捉え、進学指導に偏らない指導計画を見直す必要がある。併せて進路指導に関わる教材・教具の共有・整備も次年度に向けての課題となる。進学指導については、今年度の課題や資料、教材等を次年度に確実に引き継ぎ、改善を図っていきたい。

⑦ 保健・給食・安全

教職員間での保健安全に関する課題の共有は進んできている。また、安全教育（保健、給食指導、防災訓練等）が計画的に実施されていると感じられている成果は大きい。生徒が主体的に安全管理に努め、地域で避難を支援する側としての意識をより高めていきたい。

⑧ 経営・組織

学校教育目標を頂点に各学年・学級の目標や委員会、部活動の目標が意図的に設定され、目指す姿が共有されるようになった。特に「目指す授業像」を各学級で設定したことも意義があり、目標と実際がつながるようになっているのは、マネジメントを進める上で、大きな成果となった。

⑨ 研修

決められた出張研修意外に、校外の研修に自主的に参加することはなかなか難しいが、若手研を中心に他校への研修参加が増えたのは意義深い。校内研修については、現在の課題に十分適合した研修となっており、昨年度から行っている教科の壁を取り払った研修体制ができあがったのも大きな成果となった。

⑩ 教材・教具

教材・教具の保管、管理を見直し、整備してきているが、更なる改善が必要である。保管場所の確保が急務なので、空き教室がない中ではあるが、現状の保管状況を把握し、教科部会の協力体制をつくりながら改善していきたい。

⑪ 施設・設備

毎月の安全点検を基に、自分たちで修繕できるものについては積極的に片付けたが、予算を伴うものの執行については、優先順位を加味し、安全配慮を怠らないように進めていきたい。

⑫ 家庭・地域社会

学校の教育活動については、HPや学校・学年だより等で積極的に広報することができた。保護者の理解も深まり、協力体制が築かれてきている。特にPTA役員の支援やおやじの会の協力も推進力となっている。

関係諸機関とも連携を深めることができた。特に市教委教育研究所や市役所子ども相談課とは積極的に会合を持ち、連携を深めてきた。長欠対策や家庭に困り感を強く持つ生徒の指導・支援が円滑に行われるようになってきた。

学校課題を解決するための地域連携の必要性や有用性を教職員間で共有すると共に保護者への発信も行っていきたい。

2 学校関係者評価（学校評議員・PTA役員の意見）について

(1) 学校評議委員の意見・感想等

- ・ 前年度からの取り組み、学校経営方針や白山ブランド構築のための活動の成果が表れ始め、忙しい職務の中でも生徒と向き合い、白山中を良くしようという教職員の思いが生徒にも伝わり、共通の目標として浸透してきている。
- ・ 今年度から始まった「おやじの会」で、保護者や地域との関わりが深まり、今までよりも多くの人目が白山中に向けられているように思われる。教職員の負担が少しでも軽減するように、地域や関係機関と連携し、改善していくことは重要である。
- ・ 学校という生徒・教職員・保護者の関係の中に、どれぐらいの割合で地域・関係者を巻き込むのか、現所を壊さず改善する方向で進められるとさらに良い結果に結びつくのではないか。
- ・ 「道徳の授業」の引き上げのために「思いやり」に特化した授業実践については、生徒アンケートで唯一「避難訓練」の項目が下がっているのに結びつけて、災害時の心構えや「思いやり」を持った対応の大切さを学んでほしい。小さい子どもや高齢者、障害を抱えている人等、助けを必要とする人を思いやる心が、「震災体験キャン

プ」や避難訓練を通して、生徒が自主的に安全管理できるような力を身に付けさせることによって生まれるのではないか。相手を思いやることは、日常生活にも関わることであり、非常に大切なことなので、自分でできることなどを議論し、更に向上してほしい。

- ・ 2011年の震災時に5歳から7歳だったので、その記憶も薄らいでいるため、市内で液状化等により避難生活を余儀なくされた方や近しい人を亡くされた方等の実体験を聞き、当時の様子を知ることによって防災意識の高まりや心構えをつくることで防災意識を高められるのではないか。
- ・ 学校を訪れる際や登下校の様子などから、生徒の落ち着いた様子が見受けられる。学校生活が充実しているからこその様子であり、とても嬉しいことである。次年度以降の更なる発展を願う。
- ・ 学校アンケートは実施するだけでも大変なところ、細部にわたる学校アンケートの集約、分析に感謝。
- ・ 昨年度に比べ、今年度の数値は、日頃先生方が生徒としっかり向き合っている証だと嬉しく思う。今後もこの分析と考察を基によりよい白山中を目指して頑張ってもらいたい。

(2) P T A役員等の意見・感想

- ・ なかなか学校の様子が把握できないので、アンケート結果は大変参考になった。
- ・ 子どもが一年生なので比較ができず、「なるほど」と思うことが多い。上の兄妹の時と比べて、子ども一人一人をよくわかってくれていると感じることは多い。役員なので直接話しをする機会があったのが良かった。多くの保護者の皆さんが先生方と直接話す機会があるとよいと思う。
- ・ 昨年度のアンケート結果と比較して著しく改善されている項目が多く、校長先生を始めとして先生方の取り組まれた結果が、生徒達にも共有されていることがわかる。
- ・ 教職員アンケートの回答では、「そう思う」「大体そう思う」が多く、目標を意識された実践に、ポジティブに評価されていることがわかった。
- ・ 学校評価アンケートについては、改善点を具体的に示されていることでわかりやすかった。
- ・ 関係機関との連携について「子ども相談課の対応がありがたい」とあり、研究所も含め、外部支援を活用し、子どもへの指導・支援につながっていることは、非常に良いことである。
- ・ 具体的な目標を掲げたこと、先生と生徒が目標を共有し積極的に取り組んだことで着実に学校改革の成果が現れている。
- ・ アンケート結果は先生方の日頃からの御尽力が成果を上げた主要な要因と思い、大変感謝している。
- ・ 学校生活に満足している生徒が多数を占めており、素晴らしい。
- ・ アクティブ・ラーニングについては、今後特に重要な要素となるので、その数値結

果が上がってきていることは、大変素晴らしい。

- ・ 白山中は素晴らしい学校だと思う。これからも子ども達が笑顔で過ごせる学校にしていきたい。
- ・ いつも元気に挨拶してくれる。男女、学年、部活の区別なく挨拶してくれるのが、ここ数年での一番の違いだと思う。
- ・ 通学バッグの重さについては、置き勉が認められたので、新入生の保護者も安心できる。
- ・ 勉強に対する不安がないかなどを聞いてもらいたい。年間のテスト回数が減り、一日での実施もとてもハードルが高いと感じている。
- ・ 94%の子ども達が「楽しい学校生活」との回答に安心したが、残り6%の生徒が気がかり。
- ・ 先生方が授業に対して大変熱心に努力されているのを感じた。ただ実際に見ることができないので、子どもからの話でしかその善し悪しが伝わらないのが残念。
- ・ アクティブ・ラーニングやR80、SGE、KPTといった成果につながる教育的手法は、年度末の異動や教員の力量によって、その成果に差が生じないように是非学校ぐるみで継続した取り組みをお願いしたい。・ 先生方の仕事量が増える一方なので、保護者や地域人材の協力をなんとなく続けている既存のものばかりではなく、実状に合った価値ある形に変えていく必要がある。
- ・ 会話量の少ない生徒を把握し、学年対応することは当然必要であるが、不適切な行動を取った生徒の指導においても傾聴と対話を大切にしたい。「自分のことを理解してもらった」という満足感が得られる指導が行動改善につながると考える。
- ・ 「特別支援教育」「長欠対策」については、支援・指導計画の見直しや立案と共に全教職員で発達障害への理解と指導スキルの底上げを図りたい。通常学級の生徒の中にもグレーな生徒は潜んでおり、指導スキルの底上げは、そういう生徒や二次障害による長欠対策にも効果がある。・ 中学生は、先生を含めて大人の存在に反抗する気持ちもありつつもどこかで甘えたい、信頼してほしいという気持ちもあり、難しい年頃だと思うので、先生という立場で、厳しく一貫した態度で対応してほしい。・ 進路指導についてはクラスによるばらつきがあることをよく耳にしたので、是非学年で統一した対応をしてほしい。
- ・ 成績が良く結果を出している生徒だけでなく、うまく自分を出せずなかなか結果につながらない生徒にも目を向けてほしい。引き続き、充実した学校生活が送れるように協力していきたい。・ 進路指導は、生徒、保護者にとって大切な問題であり、その評価が上がるような具体的な計画や手立てを望む。
- ・ いじめや不登校に対するきめ細やかな対応をお願いしたい。
- ・ 「心の相談室」に行くと「あの子、行ったんだよ。」と言われるので行きづらいとのこと。行ったことがわからないような相談方法を検討したい。白山中にはないと思われるが、セクハラ、パワハラなどの類いが万が一あった場合にも、年一回のアンケートを待っていたのでは遅い、名前記入では書きづらいというようなことも考え、噂されず

にいつでも相談できるシステム作りをお願いしたい。

- ・ 登下校については、ニッポンレンタカーロータリー付近～三井生命前ファミマあたりまでの自転車の乗り方にヒヤリとしたことが何度もあるので改善したい。
- ・ アンケートの結果については、大半の生徒が「そう思う」「大体そう思う」という回答で、成長していると思う。反面そうでない生徒も多少いるので、一人でも多くの生徒が「そう思う」になるようにご指導いただきたい。
- ・ 生徒の成長の場をもっと見られるようにしてほしいと思う。

3 第三者評価（学識経験者の評価）について

この第三者評価は、既実施した学校評価アンケートや日頃の学校の様子をもとに、本校と直接の関係をもたない専門的な知識を有する方（今回は、学区に在住の大学教授に依頼）による、教職員や保護者等とは異なる立場から学校に新たな気づきをもたらしていただける評価である。

- (1) 白山中では、学校グランドデザインをもとに生徒、保護者、教員、学校関係者に対してアンケートを行い次年度の取り組みにつなげている。特に教員、生徒のアンケートは、前年度との比較をとおして、学校が教育目標その他の教育上達成すべき目標の設定・達成に向けて、数値としてとらえ、適切に取り組んでいることを評価する。
- (2) 白山中では、学校グランドデザインをもとに生徒、保護者、教員、学校関係者に対してアンケートを行い自己評価や学校関係者評価が適切に実施され、その評価結果が学校運営の改善に適切に結びつけられ、学校運営の継続的改善プロセスとして取り組まれていると評価する。
- (3) 白山中の学校グランドデザインは継続的改善のプロセスの母体となる枠組みであるので、そこに現代社会の変貌に対処する教育活動の実施を描くのが難しい。十数年前までは、思春期をむかえた生徒が、保護者や学校に守られて、余裕をもって社会とつながりを深めていったが、今やユビキタス社会（いつでも、どこでも、何でも、誰でもがコンピュータネットワーク、インターネットを初めとしたネットワークにつながる社会）が実現し、保護者、学校に守られることなく、無意識につながって、試行錯誤の連続の中で社会と向き合い、鍛えられていく姿に余儀なくされている。このような現状を踏まえた学校グランドデザインをどのように描くかが、今後の課題である。
- (4) 白山中は、継続的改善のプロセスの一環として、アクティブ・ラーニング（受動的でなく能動的な学習法で、生徒は、教科書を予習して、先生の教材に対してグループで取り組み、その成果を発表する）という新しい学習方法を積極的に取り入れ

ている。このことで、学校グランドデザインにちりばめられている、意欲向上と取り組みは健全な方向へと支援されていることを評価する。これは、生徒と教員の「そう思う」「大体そう思う」が半数以上占めるアンケート結果からもうかがえる。

しかし、アンケートの質問文のいくつかには、従来の受け身の学習法の改善につなげるような意図があり、アクティブ・ラーニングを行っている現状では、アンケートの質問文を検討しないと毎回同じような結果が得られ、継続的改善プロセスにふさわしくないという可能性も危惧される。

- (5) アンケート結果といくつかの教育活動を拝見し、社会がどんどん変化していくことに生徒、保護者、学校、学校関係者は、とまどい、試行錯誤している姿がたくさん垣間見られる。しかし、その中で、白山中の生徒は、文武問わず成果をあげ、立派に育っていることは確かである。大変ではあるが前進しているのは確かであるので、生徒、保護者、教員、学校関係者は、白山中というブランドを誇りにもって、これからも頑張ってもらいたい。

以上